



「全校生徒集合！！」

6月10日に行われた中体連夏季大会壮行会。本年度初めて、生徒と教職員が体育館に集合し、全校体制で開催しました。練習は本番直前の10分だけ。応援団のリードのもと、わずかな時間で動きと気持ちをそろえ、心一つに応援できました。(丸子北中学校)

教育研究所研究発表会を終えて… 2

第25回 教育研究論文・教育実践賞 特選受賞者インタビュー… 3

令和4年度 全県研究大会のご案内… 4~5

校長会との懇談会… 6 フードドライブ… 6 門出を彩る子ども絵画… 7

リレー通信 わたし自慢³⁶ 相撲部との日々 須田昭男 (城南中学校)… 7

100年館の絵 楠 直美 (徳間小学校)… 8

会員ひろば 久保圭祐 (屋代中学校)… 8

9月の研修ガイド

5日(月) ●人権教育講演会 ◎上伊那教育会館 講堂 ◇「人権教育をすすめる上で大切にしたいこと」永池隆(前大鹿村立大鹿中学校 校長) ☆上伊那教育会 0265-72-3416

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等(講師名敬称略) ☆連絡先

令和4年度 教育研究所研究発表会を終えて

本年度の研究発表会

- 東北信A地区：6月18日（土）千曲市立東小学校
- 東北信B地区：7月9日（土）長野市立南部小学校
- 中 信 地 区：7月16日（土）木曾町立日義小学校
- 南 信 地 区：7月23日（土）飯田市立伊賀良小学校（オンライン開催）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東北信A地区、東北信B地区、中信地区の3会場は対面式で、南信地区はオンラインで参加者数を縮小して研究発表会を開催しました。若い先生方やベテランの先生方が幅広く会し、お互いの実践を踏まえながら熱心な討議が行われました。

「振り返り」と「学び合い」を通して共に学び高め合う研究発表会となりました。ありがとうございました。

参加者の声（分科会アンケートから）

○ 子どもの行動に「どうしてだろう？」と考える時間をもつ

子どもに寄り添うことの難しさを改めて感じました。子どもがのびのびと活動できる環境と、規律ある学習環境との関係など、バランスを見て教師がかかわる必要があると思います。私はまだ自分のことで精一杯で生徒一人一人に寄り添うところまでいけないと感じたので、まずは目の前の生徒の行動に対して「どうしてだろう？」と考える時間をもつことから始めたいです。

（初任者研修参加者）



○ クラスの他の友だちにその子のよさをどう伝えていくか

子どもと向き合い、よさを受け止め、その行動の奥にある気持ちに寄り添う姿勢に感銘を受けました。自分のクラスにも気になる行動をする子がいます。少しずつその子のよいところや頑張りが見えてきましたが、クラス他の友だちにその子のよさをどう伝えていくかが今の課題です。その子の思いに寄り添えるよう、努めていきたいと思っています。

（キャリアアップ研修参加者）

研究発表会を終えて（74期研究員より）

○ これからも目の前の子どもと共に成長していきたい

参加者の先生方から様々な見方を学ぶことができ、充実した発表会となりました。研究所での学びは、これまでの自分を見つめ直すという意味で大変さもありましたが、振り返ると「これからの私」にとって、なくてはならない貴重な学びの機会だったと思っています。発表会まで、多くの方に支えていただきました。本当にありがとうございました。

発表会が終わり一区切りとなりますが、これからも目の前の子どもと共に成長していきたいと思っています。



お知らせ

各会場の開会式における佐伯所長挨拶の内容を「信濃教育会ホームページ」（信濃教育会教育研究所）に掲載（アップ）しました。どうぞご覧ください。



第25回「教育論文・教育実践賞」

「特選」受賞者インタビュー

グループの部 特選 伊那市立東部中学校教科研究委員会 代表 垣内孝康先生

Q 担当教科、担当学年を教えてください。

A 教科は数学です。現任校が4校目、東部中は5年目で中3の担任、研究副主任をしています。

Q 先生ご自身の信濃教育会とのかかわりは？

A 新卒の時に先輩の先生に誘われてずっと入会していますが、自分から講座や研修会に行くということはありませんでした。『信濃教育』は今年購読しています。(特選いただいたので…)論文に応募したのは初めてです。校長先生から「こういうのあるけど、どうかなあ？今までやっていたことまとめてみない？」と言われ研究主任の先生と手分けをして、冬休みに書きました。



Q この研究をやるうとしたきっかけは？

A 最初は学力向上の加配ということで赴任し、研究主任の先生とも相談させていただきながら、ドリルなど“与えよう、やらせよう”ということを考えていましたが、何か方向が違うのではないかと思ったんですね。教科主任会などで先生方から意見をもらいながらこうしよう、ああしようと、失敗したら次はこうしようと…と少しずつ方向を探っていきました。

Q 大規模校で、多くの職員がベクトルをそろえていくには？

A 研究主任や副主任ばかりが頑張ってもしょうがないので、こんなふうにしていきたいということ、教科主任会やOJTのグループ主任会で提案させていただき、率直に意見を交わしながら「どんなことをやっていこうか」と職員間で話し合う機会をとるようにしていきました。縦や横のつながりができるようになりました。また、校長先生は「やれ」とは言わないけれど「こんなふうにとったらどうかなあ」と方向性を示してくださるので、そういったことも大きかったような気がします。そういうなかで自然と気風・雰囲気が出ていったように思います。

Q 生徒の側が主体となって学力向上を考えていく実践はどのように生まれていったんでしょうか？

A ちょうど生徒会の顧問をしていたときに、校長先生から、子どもたちが学んでいる息づかいや雰囲気を子どもたち自身で作ったり考えたりできないかなあとお話があったのが最初です。生徒会役員と校長先生との対談の場を設けたのがきっかけとなり、生徒達がどんなことができそうか具体的にイメージし、学習委員会という新しい委員会の設立を生徒総会で提案していきました。

Q 賞金10万円はどのように使ったのかな？

A 何に使ったんだとよく聞かれますが、賞金をいただいた翌日に校長先生に預けました。

県中体連卓球の専門委員長を務められ北信越大会の直前のお忙しいときにインタビューさせていただきました。先生方と対話を重ねながら研究の方向を探り「子どもたちのためになれば…」ということがこの仕事へのエネルギーになっているようです。

伊那市立東部中学校の特選論文は雑誌『信濃教育』8月号に掲載されています。

 全県研究大会は令和4年度からリニューアルして開催します。

令和4年度

全県研究大会 注目Point!

「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業

「自分たちが本当に追究したい研究がそこにあります」

自分の研究をもっと深めたい、学校研究を広く公開して学び合いたいと希望する授業者や学校に手をあげてもらいました。研究数は16を数えます。「子ども自らが心ゆくまで探究する」授業をもとにした、独自性が生きる実践研究です。

「子どもたちと共に歩んでいる道筋が分かる研究です」

授業者や学校が、子どもたちと共にどのように授業づくりをしているのかがわかるように“研究のプロセス”を大切にします。いわゆる学習指導案は、既存のスタイルにとらわれない「私（私たち）と子どものあゆみ」として、分かりやすく工夫したまとめをそれに代えます。

「指導者ではなく一緒に研究していく共同研究者を置きます」

指導を受けるという形ではなく、共同研究者として一緒に研究に携わってもらう形にします。各分野で造詣の深い先生方に加わっていただき研究に厚みが生まれます。また、共同研究者の先生方には大会当日にワークショップ(もしくは講演)をしていただきます。

参加される皆さんにとって、自らの子ども観や授業観を見返すきっかけとなったり自校の学校教育活動の活性化を図る一助となったりすることを期待しています。

①申し込みについて 信濃教育会ホームページよりお申し込みください。

②当日資料について 全県研究大会開催日の10日前を目途にホームページに掲載いたします。各自でプリントアウトし、当日お持ちください。

③問い合わせ 研究調査部 kenchou@shinkyō.or.jp TEL026-232-2258

①②についての詳細は次ページをご覧ください。 

マスクの着用、手指の消毒、換気等感染予防に努め、開催します。



参加申し込みについて

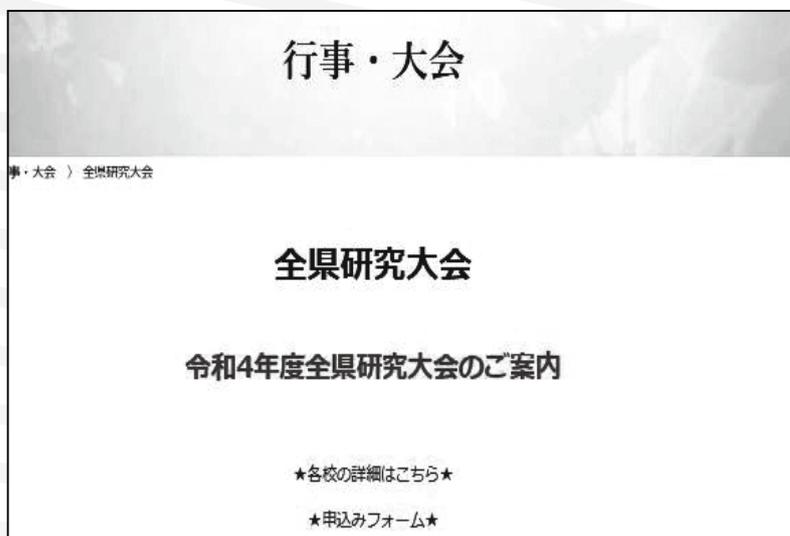
- 信濃教育会ホームページよりお申し込みください。
- 申込期限 ① 11月15日までの公開 **10月13日(木)**
② 11月17日からの公開 **11月1日(火)**
- 問い合わせ先 信濃教育会研究調査部
kenchou@shinkyo.or.jp TEL 026-232-2258

【信濃教育会 HP】

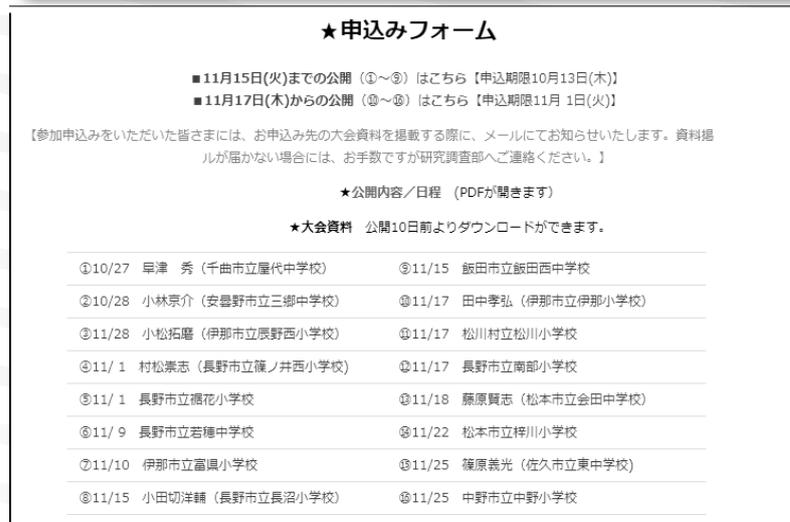


信濃教育会ホームページ → 行事大会 → 全県研究大会

公開内容の詳細と
申込みフォームを掲載！



大会 10 日前
各研究の大会資料を掲載！



その他・留意点等

- ・参加者への信濃教育会からの旅費支給等はありません。(“〇〇科研究会”等として学校で申請してください。)
- ・日程等に変更が生じた場合は、信濃教育会ホームページ等でお知らせいたしますので、ご確認ください。

信濃教育会と校長会との連携を探る

長野県小学校長会，長野県中学校長会と信濃教育会との懇談会から

7月14日（木）県小学校長会，県中学校長会の役員の皆様と信濃教育会とで懇談会が行われました。免許更新講習制度が廃止された後，教職員の研修をどのように充実させていくのかを含め，それぞれの状況や課題等を情報交換し連携できることはどのようなことか懇談をしました。



武田会長より

長野県の教員養成の特徴として任命権者や設置者の研修に依存することなく，教育会を作って教育会に集い自立的主体的に学ぶ教師を育ててきた。新たな時代の長野県教育を作るために何ができるのか共に考えてまいりたい。

校長会より

定年延長，ブロック採用，小学校教科担任制，異校種間の人事交流，教員不足等々，多くの課題を抱えるなかでどう教員の研修を充実させていくか考えていかななくてはならない。

<小グループでの懇談>

- 教育会は人を育ててきた。育休を終えて現場に戻る先生や悩みや不安を抱えている先生方への何かしら力になれるような方向を探っていきたい。
- 長野県には各郡市で人を育てる仕組みがあった。そういった仕組みを作っていくことも必要ではないか。
- 自分自身を振り返ってみると研修や人とのつながりができた最初のきっかけは強制だったかもしれない。同好会もそうだった。強いられる恩寵のような最初のきっかけがもてるとよいのではないか。
- 教員が自ら学ぶということを大事にしたい。教育会へ出ることに，先生方の出会いの場や研修に出ることを学校側からも後押ししていきたい。
- 教育会に多くの先生方が加入して先生方が育つ長野県にしていきたい。



「強いられる恩寵」は第2回常任委員会（5月12日）での武田会長挨拶の一節。「～に行き勉強してきたらどうだ」はその時その先生にとってはおせっかいのように感じることもあるかもしれないが，後になって「あの時，〇〇先生に勧められてよかった」とその先生の成長を促すこともある。後になって強いられる行為が実は光栄なことである恩寵であったと考えるようになったという内容である。

新たな時代においても，先生たちが力をつける，先生たちを支えていく，そのために信濃教育会と校長会とは連携して努力していくことを確認しました。

長野県社会福祉協議会にお届けしました ～夏休み前 フードドライブ統一キャンペーン～

信濃教育会では6月13日から7月15日まで長野県や社会福祉協議会，NPO団体とともに「夏休み前 フードドライブ統一キャンペーン」に参加しました。この間，会員のみなさんのご理解とご協力により，お米20kgをはじめ，スパゲッティやカップラーメン，缶詰などをお持ちいただきました。キャンペーンの最終日には長野県社会福祉協議会の長峰夏樹所長，元持幸子専門員にお渡ししてきました。信濃教育会では，引き続きフードドライブの活動に取り組んでいきます。今後も会員のみなさまのご支援ご協力をお願いいたします。



門出を彩る子ども絵画

～「信州子ども絵画100年館」事業～

7月吉日、とある結婚式場に新郎新婦がそれぞれ小学校3年生と2年生のときに制作した絵画が飾られました。新郎のご実家に掲げられた「信州子ども絵画100年館」の賞状を新婦が発見し、



自身の作品も入選したことがあるという話から、おふたりの結婚式での展示が実現しました。「昔絵が選ばれたことは両親ともに嬉しかったようで今でもたまに家族との話題になることがあり、このような事業をしていただいていることに感謝いたします」とご連絡をいただきました。新婦のご両親は当時絵画の展示を見るができなかったため、「こんな絵だったんだね」ととても喜んでくださったそうです。

信州子ども絵画100年館事業とは

“信州の子どもたちの絵を貴重な教育資料として後世に残し、伝えたい”という願いから、信濃教育会創立100周年を記念して昭和62年度より始まった事業です。ご寄贈いただいた1万8千点以上の作品が現在信濃教育博物館に収蔵されています。



わたし自慢 ③6

相撲部との日々

城南中学校 須田 昭男



我が家の本棚に数冊の「全国中学校相撲選手権大会」のプログラムがある。以前、在職していた中学校（木曾福島町立福島中学校）で相撲部の顧問をしていた時のものである。

私自身「相撲」の経験はなく、前任の顧問の先生から何もわからぬまま引き継いで「相撲」という競技との日々が始まった。幸い中学から大学まで武道（柔道・少林寺拳法）をやっていたので、顧問をすることに特に抵抗はなかったが、練習の基本動作一つにしても全て



手探りからのスタートだった。しかし、地域の方の手厚いサポートもあり、3年目で県大会

優勝、全国大会への出場を果たすことができた。

それから団体優勝や個人優勝で計7回全国大会へ出場し、その間、延べ80人以上の子ども達と出会った。全国準優勝した年、惜しくも予選敗退で決勝トーナメントに進めなかった年、北信越大会で長野県勢初の団体3位に入賞した年や個人優勝、団体優勝した年、もちろん年によって成績はさまざまだが、その時の子ども達一人一人の顔は今でもはっきりと覚えている。年間優に300日を超える汗と砂にまみれた練習の日々。体から擦り傷が絶えず、涙を流しながら相手にぶつかっていった子ども達。そして、そんな活動を支えて下さった保護者、地域の方との熱い日々は今も私にとってかけがえのない宝物である。

今も相撲連盟の役員として相撲に携わらせていただいているが、これからも感謝の思いを忘れずに相撲道に精進していきたい。

予告



資質・能力を育む授業づくり

「昼休みに友達と一緒に行って話していた思い出があるのでここを選びました。ジャングルジムが目立つように描きたいと思いました。後ろの木を明るく描いたり、暗く描いたりするのに苦労しました。近くにある（ジャングルジムの）棒は、濃く塗ることを工夫しました。雲をきれいに描くことも頑張りました。これは、みさちさんのふり返りカードの文章です。題材名は、「私のお気に入りの場所・風景」

です。今年度は、タブレットが個人に配布されたので、お気に入りの場所を撮影して構図の検討に利用しました。隣のブランコを高くこいだ瞬間に見えた斜めのジャングルジム。一瞬の場面を見事に切り取りました。ジャングルジムの複雑な構造を根気よく観察し、現場で黙々描いていたみさちさんの姿が心に残ります。青い空と木々の緑から、さわやかな風が感じられる素敵な作品です。

指導者
楠 直美（徳間小学校）

100年館の絵

令和3年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「昼休みの思い出」

林 みさち（徳間小5年）

信濃教育博物館所蔵

会 員 ひ ろ ば

『私の原点』

元号が令和と変わった3年前、私は新天地に赴任をし、新しい子どもたちと巡り合った。私自身、初めての1年生担任。そして当時の本校はクラス替えがなく、3年間をともに過ごしてきた子どもたち。最初は不安よりも希望でいっぱいスタートした生活ではあったが、そううまくいくはずもなく、今まで経験したことのないトラブルに直面したり、生徒とのかかわり方がうまくいなくて悩んだりした日々を過ごし、「自分は教師に向いていないんだ」と自暴自棄になったときもあった。

しかし、子どもたちと一緒に時間を過ごすうちに、私は「指導する」ことしか考えていないことに気づいた。子どもたちが自ら発信し、行動することを引き出すことが成長につながることを学んだ。そう考えてからは子どもたちと同じ目線で物事を考えたり接したりすることができ、何より私自身の成長を感じた。

昨年度の3月、子どもたちは立派に巣立っていき、一緒にお互いの成長を分かち合うことができた。この3年間の経験が、私の教員人生の原点となり、今後も出会う子どもたちを成長させてくれると確信している。

（屋代中学校 久保圭祐）



教職員川柳

花々が 色とりどりに 咲き誇る (虹色ティズ)
なせわくの 密室なのに アブラムシ (黒柳林津子)
報・連・相 トイレに行っ て いいですが (赤ちようちん)
つけましよう はずしましよの マスクかな (なつ木た代)

ご応募お待ちしております。

投稿はメールでお願いいたします。kaihou@shinkyō.or.jp

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。

